

友 林 蘇 岐

目 次

種苗交換に關する考察……伊藤 東一
 京城雜記……………征矢 三郎
 聯合マツチ参加所感……三年安江明耕
 近縣中等學校講演會之記……………二年 征矢 辰三
 農科に於ける縣下實業學校
 聯合マツチ狀況……………各部 選手
 彙報……………
 菊地教諭榮轉……………
 學校日誌……………
 會員異動……………
 校友會各部委員任命補遺……………
 諸金領收報告……………
 記念會禮金の件に就き謹告……………
 菊地先生謝恩金募集主意……………
 編輯部より……………

◎種苗交換に關する考察

(種苗交換會設立の必要)

伊藤 東一

我々の作物を栽培すると謂ふ事が、慾望を基調として立つて居るとしたなれば、其の作物が吾々の目的に反する様に變化して行つたなれば、夫れは云ふまでも無く生産の見地よりして退化とすべきである、然し此の事は植物本來の目的より見たれば、(主觀的に)退化とも進化とも一概に論定する事は出来ない。何となれば植物本來の目的と吾々の目的とが一致して居る場合に於て我々の目的に相反する様な結果を生じたとすれば我々にも植物自身に於ても退化と見る可きであるが、若し吾々の目的が植物本來の目的と相反する場合には吾々には退化でも植物自身には進化と見る事がある(此の反對に吾々には進化でも植物自身には退化とすべき事も勿論ある)例は今水稻の種子を暖地より移入して寒地に植之たとする、然る時は最初は成長も弱く結實も少なりしが、永年栽培して居る間に年と共に性質も強くなり、結實も多くなつたとすれば、夫れは吾人にも植物自身にも進化して來たと謂ふて可なるべく、又今寒地より暖地に水稻の種子を移入して之を作りし場合に最初は甚だ良く成長繁茂したりしが、年と共に成長も衰へ結實も少なくなつたとすれば、夫れは吾人にも植物自身にも退化

である、又今櫻島より櫻島大根の種子を移入して東京地方に蒔いたとする、然る時は最初は櫻島で出來る程でも無いが割合に大なる根が出來、更に夫れから採種して又同地に蒔いたなれば大根は細くなり、細根を増して來るのみならず、初めの頃は同地方の外界に對しても弱かりしものが、大根の根の細く細根を増すと共に強き性狀となつて來る、夫れは吾々には生産の見地からして退化であるけれども、植物自身には其の地にて進化したと謂ふべきである、斯くの如く吾々は日常自然界に於て凡ての植物に變異性とか順應性(應化性)と謂ふ栽培上極めて便利な現象のある事を實驗する然し乍ら此事は時と場合に依つては却つて吾人期待に反する様な結果に遭遇して不便利なる事もある、例へば前にも述べた様に成種の作物を年々同一地方に連續して栽培して居る時には、其の種苗を吾々が如何に淘汰を加へて劣變を防いでも、遂ひに目的たる生産物の量或は價値を減する事がある、勿論斯なる理由は植物の變異性から來る事もあらうし、順應性から來る事も、或は植物本來の固有性を壓制した為めに來る事もあるが、元來順應性と名付ける事は植物本來の性質からして進化の方向に向つて行く可きが當然である(謂ふまでも無く植物自身は人間の目的がコウだのデアだのとは考へて居ない)故に此場合吾々の目的と植物本來の目的と合致して居る場合には大い

此の順應性を誘發して生産を揚ぐべきであるが、若し吾人の目的相反して居る場合には大いに注意してこれを防ぐのみならず更に夫れを利用する方法を講じなければならぬ、余輩は未だ普通作物に於て具體的の實驗はした事が無いが、嘗て臺灣に在つて甘蔗に就て實驗した事がある、夫れは本問題に適切なる事例であつて最も具體的に示はれて居る事があれば少しく紹介して見よう。

御承知の通り甘蔗は熱帯地の植物であつて植物種實の生産を直接吾人が需要するにあらずして其の莖並に其の中に含まれて居る甘蔗糖分を目的として栽培する作物である然して甘蔗は甘蔗糖分を多くせんとして成長するものではない、即ち換言したれば吾人の目的と甘蔗自身の目的とは異つた作物なのである、此作物が最近甚だ多くの種類が又熱帯地なる瓜哇、布哇等より苗を輸入して盛に作られて居つたが其輸入せられた品種も年々共に單位面積よりの生産量が減つて来た、そして夫れを更に詳しく調べれば各纖維を増し開花期が従前より比較的早くなり且つ開花数が多くなつた、換言したれば各品種は臺灣の外界に順應して来たのである、更に換言したれば甘蔗は夫れ自身進化の方向をたどりつ、あるのが吾々の目的に反する様な結果を齎す様になつたのである、本場たる瓜哇、布哇等に於ても年々或品種が其の主産量が減じ然も織

維も多くなり可製糖率も少なくなりしのみならず、病蟲害も多くなつて来た、故に最初収量の減収するのは主として病蟲害に依るのが一見出来たのであつて瓜哇に於ては優良なる品種に病蟲害が蔗苗に依つて蔓延するのを憂ひ只苗にする病蟲害を防ぐ爲めに一般の蔗苗を遠くはなれた地に蔗苗圃を設け病苗の傳播を防ぎ健全なる蔗苗を生産せんとした、然してこれが爲めに高地の一部を選んで苗圃とし苗を養成した其の結果夫れより生産せる苗は病菌の無き蔗苗なるのみならず割合に充實せる苗が得られ加ふるに此の高地より得たる苗は其發育歩合も甚だ良く其後の發育状態も良く蔗莖には纖維分も少なく可製糖率を増し多大の増収を見るに至つた此の偶然なる発見よりして現在に於ては甘蔗の高地苗圃として蔗作者には無くてならぬもの、一つとなつたのである。

現に臺灣に於ける如きは政府で冷涼なる高地に苗圃を設け優良品種を養成して、これを養ひ以て生産せる蔗苗を民間會社に分配し、會社に於ては更に一定の地に苗圃を造り分配を受けたる苗を養成して此蔗苗を中間苗圃と名付けて居る、普通の蔗圃に出して甘蔗の所謂退化を防ぐ爲めに品種の更新を計ると共に生産を揚げつ、ある如きは一つに植物の順應性が進化の(植物より見たる進化で吾人には退化と見る可き者、)方向に行くべきものを巧に應用し更に病蟲

害の發生を防ぎ品種の統一更新を計る事に當を得たる方法と見る可きである、今更に此の高地苗圃を設けて苗を生産する事が何が故に植物の順應性を巧に利用したものであるかに就いて論ずれば、前述の通り甘蔗は熱帯の植物であり、從來無性繁殖に依つて栽培し來たれる爲め、植物成育の最大な目的なるより多く子孫を繁殖せんとする作用たる開化結實を計らんとする方向(即ち植物自身より見たれば、進化の方向である)に向つて順化せんとする爲めに同一品種を連続栽培する時には追ひつゝ其の種は開花期を早め而して莖葉の生産量を減じ纖維分を増す爲めに可製糖率を減じ單位面積よりの収量の減する理である、然るに今前述の如く冷涼なる高地(甘蔗の成育には不適地となる理である)に甘蔗を移して栽培する時には甘蔗は其の地の氣候の刺撃を受けて其の地に於て開花結實の方向に(一種の成育を見ても宜し)順化せんと計るものである、今此の如く植物が計らんと計る形質を順備せるものを再び適地に移せば、恰も吾々が熱帯地に永く居り後寒地の寒さを従前其の地に居た時より寒むく感じ尚ほ此の寒地に少し馴れてより再び従前の熱帯地に行けば其の地の暑さを従前と同じ温度であつても暑く感ずる様に植物も右様の刺撃を受けて成長をなす事が前より大にして纖維も減じ生産量を増す理である、此の如きは植物の順應性が進化の方向に向ひ其の

進化する事が吾々には都合の悪い爲めにこれを巧に利用した一例であるが、尙ほ吾々は此の順應性の爲めに植物が進化した事其の事が極めて都合の良い場合がある、例へば或一種の作物を他より移した場合に、其の作物は外界の變化したのが爲めに甚だしく生産を減じたとする(前例稻を暖地より寒地に移したる場合の如し)年々栽培して居る間には良く順化して相等の生産を揚げる様になつたとか、或は珍しい植物も他より移した時に於て外界の變化の爲め始め成長も不良であつたが順次其の成長も良くなつて來たと云ふ様な例は他にも多くある、次に私は前に植物に變異性がある爲めに應々吾々の目的に反する様な結果を生ずる事があると謂つたが、此の變異性に就いても色々の説もあり、そして尙ほ不明な點が多くあるが、私は次の様に思ふ、元來變異と謂ふ事は若し遺傳と謂ふ事が嚴肅なる事實であつたならば遺傳以外の變異はある筈では無いのである、換言したれば若し純系であつたならば(勿論遺傳が嚴肅なる事實とした場合)變異と云ふ事は遺傳的には無い筈である、即ち全體の結果が遺傳的變異に依つて吾々の目的に反する様な結果に遭遇する事は無い筈である、それ故に吾々が若し豫期しない様な變異を現はした場合には夫れが所謂不明の偶然變異と名付けるもの、外は他に遺傳による變異(かう名付けて宜いか否かは一寸疑問である)を求す

べき素因が然ればならないのである、即ちムタチオンの外は純系が退化したり進化したたりする筈は無いのであらねばならぬ、尙ほ次に私の述べて見たいと思ふ事は多くの植物は出来るだけ他花授精をなさんとしつゝ、ある事實である、即ち純系のみを自花授精に依つて長年同一地に栽培して居る時には遺傳に依る變異(退化したり進化したたりする事は無い筈であるけれど、此の他花授精せんとする植物本來の個有性を壓制する爲に其の植物が軟弱となり豫期の生産を揚げ得られないと謂ふ事はあると思ふ)此の場合吾々にも植物自身にも退化したと名付得らるゝものである、私は以上に述べた變化を植物の順應性に依る變異と名付けたのである。

而して此の植物の順應性に依る變異は凡て植物が進化の方向に向ふ可きものでなければならぬと思ふ、次に植物には前述の變異の外に他花授精(即ち形質を異にせるもの)のものとの授精によりによりて外見の變異を見る事がある、然して其の變異の方向を知る事は栽培上極めて重要な事である、これに就いて、ダーウイ氏は其の著進化論に於いて、進化の方向に向ふ可しと曰へるけれど、メンデル氏の實驗其の他に(形質以外のものは相對性と見る事が出来る)授精による變異は特性遺傳となりて變異をなすものとせられた、然して此の相對

性の交配雜種による子孫の變異の方向は如何なる方向であるかを知らず必要なる事であるが、此の場合に於てメンデル氏は其の遺傳表現力の強いものを優性と名付け表現の弱い形質を劣性と名付けられて居るが若し此の場合相對性の中優性と見るべきものが植物の進化に都合良き状態であつたならば特性遺傳に依る變異は植物の進化の方向に向ふべきものとして良いのである、從來多く實驗せられたる相對性の中優性と見る可きもの、統計を見るに植物成長繁殖に都合良き形質が優性の場合が多い様である、これに依つてこれを見れば雜種に依る變異も亦進化の方向に進みつゝ、ありとする事が出来る(勿論此の場合生産の見地よりしたれば追化と見るべき場合と進化と見る可き場合とはある)

次に私は前に作物を連作した場合、植物の個有性を壓制する爲めに吾人の目的に反する様な結果に遭遇する事があると謂つた即ち從來作物を連作した場合に於ては、其の作物個有の養分を其の地より吸収する爲めに連作地は其養分の缺乏を來して作物の結果悪しくなつたり或は其の作物に個有の病蟲害が繁殖して結果悪しくなつた様に謂はれて居つたこれも固より大きな原因でもあらうが、多くの實驗に依つてこれ等缺乏せる養分を補ひ、病蟲害を驅除しても尙ほ新しい地に換へて作つた様な結果に至らない事が多い、此の悪いのは植物が大いに新

地に繁榮せんとする力を壓制するからでは無いかと思ひ新しい地の結果が良いのは色々の刺撃養分が有るからであると思ふ。

以上に於て吾々は同一作物を永年同一地に栽培して居る時に、吾々の期待に反する様に變化して行く事の理論を知り併せて其作物が進化したり退化したりする事を巧に調節したならば悪結果を齎す事を防ぎ得らる、のみならず、夫れらを巧に誘引利用したならばより多くの生産を揚げ得らる、事を知つた而して此の調節と誘引利用の方法としては新種を作り出すの種苗の交換を以つてするを最も便利とするのである。

交差は此の地で生産せし種苗を其の地と異なる外界の地に生産せる種苗と時折巧に交換栽培して行く事である、これ種苗交換の必要にして利ある所以である、而して其交換の方法に就いては、各植物の種類性質吾人の栽培の目的其の地の外界の状態等を綜合して計る可きであつて、一々遊ぶ事は複雑なる事なればこれを略し、要は植物栽培に於て其の植物の進化を目的とするか、退化を目的とするかを考へ如何にすれば其の進化或は退化を防ぎ又は助長する事が出来るかを外界の事情と植物の性質より考へて査定するより他は無ないのである。

種苗交換會設立の必要、以上述べたる所にて吾々は種苗の交換を最も合理的に實行したならば、如何に容易に生産を増し得べき事を知つた、若し社會政策の標語が、最

大多數の幸福と謂ふ事にあるとしたならば社會の大部分を占むる農業に於て、人類の生活の原料を供給する農業に於て、斯くの如く簡單にして然も自然の天恵を利用して多くの生産を揚げ得らる、方法があるとしたならば、吾人文化農法に志しあるものは其途を選ばざるを得ないのである、これ私種苗交換會の設立を切に希望する理由である、米國の或る學者は新しい種苗の提供と其巧みなる交換は人類の幸福を増さしむる最大なるものであると謂つて居る、又金言たりと言ふべきである、元々此の種苗の交換は行はれざるに非ず、世界各地に於ても種苗商、試験場、農會、或は新聞、雜誌等にて仲介しこれを行ひ居ると雖も徒らに名のみ多くして統一を缺き或は農民の依頼す可きに設備を缺く等充分なるもの少なし、こゝに合理的なる種苗の交換會を設立(組織は官營でも有志に依る會でも良い)して農家各が自然の天恵を受けて生産を揚げて行く事は各自の利益なるのみならず社會に奉仕して大なるものと思ふ。



◎京城雜記

征矢三郎

の休息日が来た、朝起きてから此の日曜を如何にすべきなぞ、繩を拘う必要もなく作戦計畫は土曜日の朝から出来て居た、朝は早く起て朝市へ行く午後は王城を觀に行くと晩は活動へ居くと之れで一日完全に埋まるのだ、神は日曜にゆつくり休息したさうだが人は日曜に忙がしく觀廻はる、太古と漢季とは直反對の相違である、蓋し人智の邪慾が然らしむるのであらう、願くは終日終月終歳終生輕羅を纏つて椰子の葉蔭に睡むつて居たい、アーメン

此のアーメンを神が聽許ましましてか前夜の内に王城行きは止めることに極めたが早く起きるのが厭だと思ふ前に思ふて眠つた爲か例日よりグスリ寝込んで遂に一度聞いたことのない佛蘭西教會堂の曉の鐘に日曜の朝の、どろける様な甘い眠を覺まされてしまつた「今日は一体何んな天氣だろう?」といきなり臥床の中から頭を擡げて窓を明け雨戸を推すと切な襟な半島國の朝風を透して今し東の峯の上から差込んだ太陽のバノラマ仕立に灰白色を帯べる滿都の風物に反映して来た強い光は暗い室から伸び上がつて今開いたばかりの余が目は唯た一色の銀白に眩んで土鼠が土を掘り上る時過つて顔を地上に突き出した時斯くもあらうかと思はる、ばかり「好い天氣」と殆んど恐れて首を縮めて再び夜具の中にもぐり込んだ

南大門の通りは頗る廣く東側を電車が走り右側は鮮人の市場が立つて居て其中間は人のな來に不便を感じない、それに露店の延擡げられた品物もゴタ／＼したものは少くない、密柑、梨子、胡桃、棗、栗松の實などが一番多く其他魚類では漢江のボラや仁川の鯛などが重なるもので雑踏もなんにも仕ない極く寂びしい東京の夜店よりも餘程落付いたもので買手が至つて少なく唯だヨボとチンががぞろ／＼と我々の後に跟いて來て先導のK君が「アンサ(不用)よ、チンがうるさいよ」と吐り付ける、それでも一向平氣にチンガが四五名赤や白の長いボカ／＼服を着て何處迄も付き纏ふて來る。チンガの服装は日本の女子が着る筒袖の被布を身丈の長さにした格好で多くは桃色のを用いて居る、そうして髪を長くして帽子を被ぶらない、能く三國誌の繪に見る人物の格好に肖る居るこのチンガの服装は氣に入つた内地へも輸入したら面白からう朝鮮人の服装は世界中一番具合の好いものだと思つたが縮入りの股引などは日本服より進歩しておつたかと思はれた、斯様なことを聞いたり見たりして行く間に早や南大門近くなつて「なんだ詰らない、こんな所へなら朝早く眠むい目を擦つて態々出かけるにもおよばないものを」と云ふと「まあこれからが市になるのだよ」とK君は路を左に電車のレールを踏み切つて横丁へ先

導した

市場本部の黄色い塵芥の揚つて居る陋しい狭い門を潜つて中へ入ると稍や廣い場所になつて其處にヨボ君等が一團に蕙を布いて例の栗松の實、干柿、もやしなどを擡げて居る思つたより清潔であつた、そうして日本市場で見られる様な符牒で商人が買ひ競ふ烈しい掛け合いがなく無事平穩な光景である、扱物好き半分は買ひはうと云ふので蕙の前に立ち止つたが店の主は言はない變なんだと思つて見廻はす店主のヨボ君は何處からかヒョクリと出て來る、

「ヨボ栗幾ら?」と古參のK君は叱る様な聲で切り付ける「鮮貨アシブチヨメ(五十錢)とヨボ君はスバ／＼長煙管を吸ふ「アンチ鮮貨アシブチヨメ(二十五錢)よ、誰れが日貨五十錢に買ふものかよ」鮮貨アシブチヨメ否や」とばかりにヨボ君は首を横へ向けて知らん顔して居る、彼等は決して押賣りはしない、淡泊極まつたものである

二三軒隣の店へ行つて鴨を買ふとしたら日貨五十錢と云つた「ザリサキ、アンチよナツブササミ、鮮貨三十錢なら買つてや」といつて大喝して引き揚げるマネをするヨボ君後から追かけて來て「負けるよ」と言ふ誠に顔の癡狂にも似ず極めて順しい人種である、此方の付け直段が氣に入らなければ首を横にしたたり長煙管を喰へ

て一向取り合はない押賣りすると云ふことがないから面倒がなく結構だ、執着心の弱うにギザ／＼と鋭いものであるをうして此の山の中に住む人間が使所と井戸と所にしてナマヨのように情眼して居るし要するに之れデカダンの標本である、今にヨボ君等長煙管をへし折つて捻鉢巻をしなければならぬ時が來るだらう。

(四)

京城へ來た當座は物珍らしい氣に郊外へ迄も散歩に古參の男と寫眞機を肩にして東大門外へ出た、蕙菜の若葉が二三寸伸びた畑の中や田の畔を無茶に歩いて下駄を泥だらけにし鮮人店から買つて行つた干柿や南京豆を一口嚙んで汚ない、拙いどて皆んな乗て、ア、彼の向ふの堤へ上つたら漢江が見ゆるだらうと一直線に田の中を突切つて土堤に上つて見ると前面は又々一團に田で下の流れには泥濘の上水で、鮮人共が大勢で伸び過ぎた芹を洗つて居る

我々が近寄ると女の子が五六人ウツサと逃げ出した、今度は堤路を辿つて村へ入つた此村は南と東とに芝生の黄色い丘を自ひ低い藪根の家が丘の斜面に釜を伏せた様に並んで暖かそうだが、所々にチンガが大勢群衆して何か騒いで居る

漢江が何の方だと問ふと彼方より南の丘を指す、彼丘へ上つたら見ゆるだらうとて丘へ上つたら前方は丘陵起伏際でもなく漢江

迄は餘程の距離と思はれた、丘の背面に芝生が密生して疊の様な平らな處があつたから此處へ腰を下ろして矢伸をしながら煙草を喫んだ、直ぐ下の處は四方に芝生の美事な丘陵を廻らして枝ぶりの良い松樹が有り其間に瓦葺きの大きい家があり石で框を取つた苔蒸せる井戸あり、外に藪屋根が其方此方の樹隠れに見えて、鶏犬相聞け、前方は次第に高い丘になる、浮世の風は道はぬらしい實に閑静な平和な谷間である、山中の田舎家でありながら我々が本國の田舎で見るやふな陋しい氣味はない、小ざつぱりして暖かそうで眠くなる程太平だ、山の容、家の門の構へ、楊柳の姿、凡て支那風の畫を思はせて直ぐ聯想させるのは武陵桃源、何んだか秋後く山へ行つて松葉の下に若しや栗のこぼれは有りはしまいかと彼の木込みの中に葡萄が下つて居やしまいかと夢心地になる其氣持が、今此の谷間を眺めた時の心持であつた、單に平和で静かだ云ふのではない妙に心を惹き付けて、低徊去りがたい心を起させる、禿山で土臺樹木がないから伸び放題な、霧鬱陰森など云ふ複雑な感じがなく又荒廢の跡も無い、陰氣な面影が無く何處迄も明るい中に古びた姿がある、其處に模倣として見窮められた様で猶何れだか棄て去りがたい趣がある、神と云ふ程に神秘的な感じもなく怪と云ふ程に暗い感じもなく、鬼と云ふ程に凄い感じもない、詰りは仙と云ふものになる、夫れが



◎聯合マツチ参加所感
三年 安江明耕

武陵の桃源と云ふ聯想になる、今でも思ひ出すと彼様處に住まつて見たいと云ふ氣にもなるが二度行つて見たら彼の仙境も嫌氣がするかも知れぬ唯だ折々思ひ出して憧れて居た方が良さそうに
歸途郊外から京城を眺めた時、夕日が佛蘭西教會堂の彼方に沈んで行く景はカンパグナの郊野から羅馬城の夕暮の景を眺めたと云ふそれとも思ひ見られた、東大門外から見る京城は一番堂々として居る(完)

例年の幹下實業學校聯合マツチに本年も本校から選手を出すことにした、去年は不幸にして選手連は頭を割つて歸つたが本年度は幸にも庭球擊劍は第一位、弓術は第二位柔道は第三位を占めて凱旋することが出来た、右につき我々選手の感したま、を二三述べて置かう
試合は九月三十日豊科農學校で舉行せられたが前日午後の險悪な天候は一變してカラリと晴れた秋日和運動には最も適當な日であつた各學校から集た、選手達は各々自校の應援者に圍まれ乍ら大元氣に入場するに引換へ本校はひとり淋しく引率教師に導かれて入場した、其の時は實際心細い氣がした、乏しい校友會費を強いて我々選手のために削つて迄も本試合に出場させる勇氣

本校生諸君より選まれて一度必勝を期し出場した我々が僥倖にもあれ天佑にもあれ兎に角勝つた時は只嬉しいと云ふ外はなかつた、我々選手一同としては互の責任を盡し個人としては若者の淡い勝利と心理を味つたのである、早速この喜びを報ずるため自分達は學校初め吉報を持ちわびて、呉れる親愛なるI君に打電した
場内を引揚げて、山林校には名もふさはしひ旅館山中屋に歸る途、遙かに西方日本アルプスの連峯を眺めた時自分等の胸には更らに一種言ひ知れぬ平和な感慨の波が溢れた、それは強ち試合に勝た喜び許りからではなかつた、唯何とも言へぬ神秘的な感じであつたが要するに是れも勝利者の胸から湧き出づる六管的の喜悅であると感じた時私は微かに心の底に「強者たれ」と叫んだ菊地先生も「戦に勝つてアルプスを望む阿」と囁かれた、斯くして我々は沈黙の裡に悦を堪へながら歸宿した

要するに凡ては強者が勝つのである、運動にしても競技にしても普通の練習奈那にある、試合に前だつて俄か練習は到底ものにならぬ、僥倖は稀有の獲物である、我々は徒らに運命の綱に縋るべきではない、自分が自分の運命を開拓し進展せしむる所に眞の勝利たる所以は存するのである、私は歸校の途中松本に立寄りI君と卒業生O、I兩兄の所に一泊し吉報を齎らして歸つた

◎近縣中等學校講演會之記

二年 征 矢 辰 三

九月三十日午後六時より松本高等學校の主催による近縣中等學校講演會に本校より井月一郎君と小生が其末席を汚がしました午四時迄に集る選手廿一名其れより公會堂階上にて晚餐會が月かれた校長先生外諸先生に委員と辨士が互に名乗りやら感想等を述べて最後に校長先生は「雄辨其れは必ずしも手振音聲の好いものばかりには限らない要するに聴衆に自己の意志を通せばよい如何に雄辨と云へども一時的に聴衆を酔わすのみでは雄辨でわなないあの三宅雪嶺は突辨の雄辨家であると云ひ此外當日の注意をし部長より懇切な話等があつた誠に愉快な有益な會合であつた此の會終る頃聴衆既にへめかけ盛會を極む定刻委員長の開會の辭に次ぎ其校出の辨士順次登壇

- 一 學歴萬端の弊風を打破せよ
- 一 更級農學 内山 穂東
- 一 國際的方面より見たる我が教育界
- 一 小諸商業 土屋 幸男
- 一 支那を如何に見るか
- 一 長野中學 青木甲子男
- 一 泥中の蓮 木曾山林 征矢 辰三
- 一 吾人は畢竟何物なるか
- 一 長野師範 杉山代司美
- 一 海外發展に就いて
- 一 長野中學 岡本 大助

があつたならもマツチ奮發して應援團位は作つて貰ひたいと併ふ乍らも恨めしい氣がした、試合は午前八時から始つた、雲の如き觀衆からの應援、爾次、拍手の中にも我々は始終本校選手の動靜を氣遣つた、今年度の試合に我々の目指す相手は原より小蠶であつた、去年の試合で本校選手が庭球、劍道に敗られた小蠶の主將連は本年も出て居る、我々の腕には覺せず復讐の振りがかつた然るに劍道試合に於て本校選手村上君と最初の組合せが小蠶の猛者であつたにもか、はらず見事二本の勝を占めた、此に於てか本校選手の意氣俄に激揚互に相勵ました、次いで本校岡庭君と下伊那校との試合に又もや岡二本の勝利は當に當日劍試の花型として惜しくはなかつた、本校は順次好成績を占めて正午に至り午後の高点試合に幾つた、高点試合には本校伊佐治君と私が出場、僥倖にも私が小蠶の主將外六人を抜き八人目遂に小蠶の副將に敗られた、次南農の四人、本校伊佐治君の三人抜以下略かくして劍道は午前中の点探に於て本校二〇点、小蠶一九点、上伊一八点の制を以て遂に優勝、庭球も初め本校選手の小蠶は惜しくも小蠶主將組に敗られたが、加藤樋口兩君の主將組は見事に敵の主將小蠶を敗つたかくして庭球も最高点を贏得した、日常些かの事にも他より自分が優れると云ふ事は生存競争の昨今に在りて無論嬉しい事柄である、況んや事は小蠶も愛する

- 幸福 野澤中學 白田 正雄
 - 岐路 諏訪中學 太田 和彦
 - 弱者の叫び 日川中學 山形 景雄
 - 日本雄辨史を顧みて 長野商業 矢島 三郎
 - 實生活より一步宗教へ 上田中學 關 一三
 - 現代教育の關争性 松本中學 武井不二美
 - この使命を果さん野澤中學 三浦又一
 - 吾人の覺醒 小諸商業 美齊津佳行
 - 題未定 日川中學 根津 知好
 - 生さんが爲の努力松本中學 草間
 - 吾人の戰闘 更級農學 若林 信廣
 - 衰退せむとする我農民 木曾山林 井戸 一郎
 - 將來の英米 長野師範 新村 清一
 - 愛は人生の基調なり松本商業 下條英雄
 - 題未定 上田中學 守 深美
 - 一閉會の辭
- 年若き雄叫に緊張の極に達せる會場は堂々動かす拍手により十時過ぐる頃再び静寂となつた(終)
- ◎豊科に於ける縣下實業學校聯合マツチ狀況
前號に豫告せる如く九月卅日の同會は非常なる好成绩を擧げて凱旋した、即劍擊、庭球は第一等の名譽を博し弓術は二等、柔道は三等の地位にをり頗る覇を中信の天地に

鳴らしたのである、以下各部選手の戦勝報告を以て諸君に見ゆる次第である

○剣道の部

伊 佐 治 生

去る九月卅日第二回縣下實業學校聯合マツチ南安農學校に開催されたり
集つた十五校の中剣道十校は小蠶、下伊、上伊、更農、諏靈、北農、東農、下高、南農及び本校にして九十四名の選手であつた
本校より十名選手出場す、試合開始前審判角田先生より選手一同に詳に注意ありて先づ豫選試合八時頃始まる本校選手と他校選手との組合せ次の如し

- (村上) 本校 ○ ○ (岡庭) 本校 ○ ○
 - (田中) 小蠶 × (伊藤) 下伊 ×
 - (新井) 上伊 ○ ○ (丸山) 南農 ×
 - (安江) 道 本校 ○ ○ (松島) 本校 ○ ○
 - (野村) 本校 ○ ○ (上條) 東農 ○ ○
 - (北島) 更農 × (千賀) 本校 ○ ○
 - (花) 岡 (諏靈) × (神津) 北農 ×
 - (伊佐治) 本校 ○ ○ (安江明) 本校 ○ ○
 - (石田) 南農 ○ ○ (山田) 南農 ○ ○
 - (吉田) 本校 ○ ○ (原) 本校 ×
- 第一回戦に於ては此の如く八組勝利を得二組敗北となり然し選手諸君の奮闘努力により十校の中点數第一位を占む、十一時半試合終り晝食となり零時半高点試合(各校より二名宛) 始まる
- 土屋 功 (小蠶)
小林 貞次 (北農)
安江明耕 吉江 誠治 (更農)

- 矢澤 角男 (上伊)
 - 中山 八郎 (下高)
 - 石田市三郎 (南農)
 - 伊藤 博男 (下伊)
 - 矢崎 憲一 (諏靈)
 - 中村 周助 (北農)
 - 山田 四良夫 (南農)
 - 石井 丙馬 (東農)
- 以上の如く高点試合も僥倖なりき殊に安江君の七本抜き奮闘振りを南安平野に名聲を博され創立以來の新レコードなり

○柔道の部

生

午前八時選手入場参加學校北佐久、上伊那更科、南安農各學校、九子農商學校然して本校の六校であつた
先づ豫選試合に始まる本校選手と他校選手との組合せ勝負次の如し

- 4 (山島) 光治 (上伊) ○ 5 (新井) 深美 (本校) ○
- (櫻井) 榮一 (本校) ○
- 9 (大工) 原俊司 (北農) × 11 (米倉) 寛 (本校) ×
- (水野) 福三 (本校) ○ 18 (近藤) 友規 (更農) ×
- 13 (岩尾) 慶一 (本校) ○ 18 (小井) 士猛 (丸九子) ×
- 21 (中村) 博司 (上伊) ○ 22 (上條) 高志 (山林) ×
- (古越) 光明 (北農) ○ 22 (相吉) 甲子 (永本校) ×
- 27 (宮下) 武夫 (本校) ○ 28 (吉池) 盛夫 (丸九子) ○
- (長崎) 正治 (南農) ○ 28 (小松) 雄二 (本校) ○

第一回豫選試合に於ては此の如く最初の成績良好なりしも順次奮はず遂に大將連の敗北を見最後の望を失ひしはかへすかへすも遺

○弓術の部

雅 人 生

九月月上旬以來我々選手一同も聯合マツチに眺む可く日々練習された然して遂に廿九日豊科に向ふ事となつた
驛員の呼聲と共に明科に下車し愈々敵地へ踏み込みし儀感せられ互に見合す顔に笑をた、へ意氣益々壯んに實に當る可らざる勢であつた、しかるに途中よりポツリ、と降り始めし雨は宿に着くと益々強く篠つてばかりの勢を示した互に明日學校の名譽を

第二回戦に於て一名は引分一名は敗る

第三回戦

- (依田) 德三 (北農) ○ (茂木) 今朝吉 (北農) ○
- (中村) 敬雄 (上伊) × (依田) 富三 (北農) ○
- (相吉) 甲子 (永本校) ○ (相吉) 甲子 (永本校) ○
- (中村) 敬雄 (上伊) ○

負ひ立つ可き戦地なる南農校庭を見んものと唯心のみをやらせあせりにあせつて居るのみであつた
然る所今まで暗かりし空も幾分明るく雨も小止みとなつた
殊に我々の如き場慣れを要するものいかに安閑として居られ様さあ行くこと云ふ聲が口より口に傳へ直に校庭目指して……
鉢弓場は静かな校舎に沿ふた所である昨年の如く砂も悪くなく水も大して溜つては居ないまゝ普通の所である
二三射した%は面白くないが又悲観する程でもなかつたか、三十分程にして南農選手の爲めに場を開けた余りに大して驚く程ではないしれたものだ
其の夜小貫先生から一般の注意あり其の夜明日の作戦計畫で約一時間額を集めた之も何時しか終り床につき戦闘す可きエネルギーの貯蔵にか、つた
九月廿日愈々今日は勝敗を競ふ當日である先づ充分身仕度を整へ誰かの音頭で校歌を始め他校におどろす勇ましく校門に集まつた、簡単な入場式後各部分かれて取か、つた

時は午前八時、試射各二手づ、事が事だけに落着かなければならぬ十時頃に終り禮射として山崎貫山先生出られ愈々本試合の幕は切り落された
昨年の如く名自十射宛一本命中して一点とし一校選手總得点を以て成績とした其結果

○庭球の部

樋 口 生

優勝して歸る
九月一日より六組の選手を選抜し少しの雨風もいどなく、放課後四時半迄毎日、猛練習を續けた功現われ、こゝに優勝する事の出来たのは、我々選手の何より喜びとする所なり、或る時は中津へ試合に行き或る日は機關庫と試合をして見た、そうして自信に自信を付け廿九日六名の選手意氣揚々と出發した、其の日は何んぞなく定まりのつかない天気で、雨が降つたり止んだりして居つたので、明日の天気が不安であつた、豊科へ着いた時又雨が降り出し、練習と云ふ練習も出来なかつた、然し朝になつて見れば天に一点の雲なく晴れ渡り、庭球

の好日となつて居たので我々選手は今日こそはの元氣を持つて宿を出發し競技にか、つた、参加學校は十三校三十九組であつたコートが第一第二と分れて有つた其の取組の成績次の如し
但し第一回戦はゲーム三回、第二回戦よりゲーム五回なり

第一コート 【第一回戦】
山林 (若井) × 森下 (下伊) 川上
山林 (太田) 不戦優退
山林 (古畑) 不戦優退

第二コート 【第一回戦】
山林 (加藤) 不戦優退
山林 (若井) × 佐々木 (上伊) 本澤
山林 (古畑) 不戦優退

第二回戦に於て長谷川組上伊那農學校の主將組も又も見事に破つた太田組は残念ながら小蠶の主將組に敗られた

第二コート 【第二回戦】
山林 (加藤) × 長谷川 (小蠶) 山浦
山林 (太田) × 長谷川 (小蠶) 山浦

第二回戦に於て樋口組一も二もなく敵をぶち破りたり

【第三回戦】
 第一回戦に於て又々や運悪く長谷川組小蠶の主導組を奮闘に奮闘を重ねたが、ついに敗られたり

第二コート 【第三回戦】
 山林(樋口) × 北佐久(岩下)
 山林(加藤) × 花里

第三回戦に於て樋口組見事に敵を打破つた
 第四回戦より全部第一コートに移る、四回戦の時は余す組唯の八組なりし

第四回 ○
 山林(樋口) × 南安(折井)
 山林(加藤) × 小蠶(白田)

第五回 ○
 山林(加藤) × 小蠶(白田)

が、實は恐ろしかった、然しこれからだと元氣を出して「チークケヤ」の言葉をかけつ、戦争を続けたい三ゲイムをつけて取つた其の時我々初め我々の者の喜びは何んにとどめて良いやらわかりません、實際苦戦であつた此れも皆先生や應援者の御蔭であつた、いよいよ決勝戦となる

決勝戦 【第六回】
 山林(樋口) × 下高井(廣瀬)
 山林(加藤) × 桑原

決勝には一も二もなく下高井を取つた、ついに月桂冠を戴いて歸る事の出来たのは何より嬉しかった

◎大町中學へ遠征す
 十月一日(日曜日)勝に乗じ我が六名の選手大町中學へ遠征し勝利を得て歸る



景 報

○菊地教諭榮轉
 本校教諭兼舎監菊地一先生には今度水戸高等學校教授に御榮轉十月十六日御赴任遊ばさる先生には大正九年二月本校に御赴任以來在職二年八月其間銳意博物教授の策進に努力せられ其間鳥類魚類を始め昆虫植物に至るまで木曾産のものに就き御研究になり倦む所がなかつた又寄宿舎舎監として生徒と交り餘暇剣道の稽古に於て本校剣道部に盡された今の時に於て先生を本校より

失ふは遺憾に堪へざる處なるも先生御一身の爲將又本邦學術界の爲に先生の御榮轉を祝せざるを得ない、茲に先生の御自愛を祈る次第である

○學校日誌
 十月
 二日 月 雨天 本日より午前九時始め
 五日 木 晴 本日より秋季實習開始事業は苗圃の霜除、裏山演習林に於ける造林地地拵、大手山の落葉松の手入、其他農業測量測樹林産製造等
 菊地先生上高井農學校へ出張
 十三日 金 晴 秋季實習終了
 十四日 土 晴 臨時實習として第二十二回秋季運動會準備に着手、田中先生生徒三名引率小縣蠶業學校へ寄宿舎視察の爲出張
 十五日 日 晴 去る九月廿九日の繰替授業、校長松本高校出張、植尻農學校生徒百五十名來校參觀
 十七日 火 晴 神嘗祭本日午前九時より校庭に於て第二十二回秋季大運動會開催、昨日は天氣曇り勝ちにして夜に入り大雨一時に來り會場設備品及裝飾品等を取片付る等大騒ぎを演出せしが夜十時に至つてやみ星を望むを望た、本朝猶霧深くして稍憂ふ所あつたが午前七時霧を破つて朝暉には杭の原の紅葉に閃めき一同愁眉を

開いて本日の盛會なる可きを祝した
 會場裝飾の如きは運動會としては第二義的の事に屬し先づ競技の眞面目を以て願ふ所となすと雖も裝飾係増田先生は裝飾の意匠技巧共に秀逸にして係員を指揮して歓迎門にポスターに新規軸を出した其他凡ての會場設備裝飾整ひ午前九時岡部會長の開會の辭に次ぎて全に生徒のフットボールに始まりプログラムは進行した晝食後の余興假裝行列は俗惡を避けて諧謔を尙び大いに人士をし、清興せしめた、午前よりつめかけし觀覽客は午后に至りて一層混雑し庶務部接待部賣店部の活躍を促し高き所に陣どれる音楽部は練習時間少かりしにも拘らず誠意あるを認めた殊に本年心地よく感じられたるは競技の一眞面目に行はれたる事であつてこれは本運動會將來の發展の基調たる可きものである、又風紀部は衛生保安の仕事に擴張し會報部の論説よく權威を持し何等かの刺戟を供給したるを信するのである、薄暮各クラスリレーレースを以てプログラムは其終を全ふし全一日何等の障礙なく本年の運動會は閉ぢられた、少しにても眞面目と誠實との溢る、處には希望を先ずるものである、

- 十八日 水 晴 本日例の如く慰勞休暇
- 十九日 木 晴 運動會跡仕末
- 廿日 金 晴 上伊那郡藤澤青年會廿三日來校參觀
- 廿二日 日 晴 本日小出文部督學官巡視せらる、校庭に於て郡下小學校庭球試合を行ふ
- 廿三日 月 晴 小林福島町役場書記第一區長第二區長來校來年度新植地の刈拂の境界を定む
- 廿四日 火 晴 放課後豊橋駐在聖公會長老ミルマン師來校天文學及創造主に關する講演あり
- 廿五日 水 晴 名古屋市立工藝學校教諭藤江乙次郎氏外職員三名生徒四十有余名來校參觀
- 廿六日 木 雨後晴 縣參事會員瀧澤一郎塚田佐市兩氏會計検査の爲來校視察せらる隨行川瀬西筑摩郡長手塚縣會議員木戸新開村長河内土木吏員中村警察署長等
- 廿七日 金 曇 山梨縣森林視察員來校參觀
- ◎會 員 動 靜
- 吉田良惠君 福島縣石城郡入遠野村大字上根本入遠野保護區官舎詰(平署)
 - 小林敏三郎君 退職兵庫縣容粟郡西谷村在住
 - 征矢三郎君 愛知縣廳へ奉職同縣岡崎市中町十區砂防森林事務所在勤
 - 鈴木靜夫君 東京府下池袋字丸山一六

- 三〇住居
- 星加晴雄君 朝鮮、平比、高山鎮王子製紙出張員として勤務
 - 可兒敏郎君 甲種勤務演習召集解除岐阜縣可兒郡上田村住居
 - 小林元君 高萩小林區署辭職上田市紺屋町大坪時方居住
 - 福井浩君 名古屋市東區西新町一藤井清吉方居住
 - 米山芳郎君 南滿洲熊岳城居住
 - 上井乙之助君 岩手縣稗貫郡湯口村鉛温泉保護區詰勤務
 - 南勝石衛門君 朝鮮慶尙南道河東九州帝大演習林へ轉居
 - 藤井柳君 東京市芝公園内遞信官吏警習所内へ轉居
 - 泰道信君 舊姓村上を泰と改姓高知縣廳林業課勤務
- 校友會各部委員任命
 (九月十六日)補遺
- 弓 術 部
- 中 村 幸
 - 大 内 隆
 - 湯 本 六
 - 遠 山 重
 - 運 動 部
 - 濱 野 敬
 - 新 美 成
 - 小 松 利
 - 新 井 深
 - 美 三

諸金領收報告

○林友代

一金貳圓也

一金貳圓也

一金貳圓五拾錢也

一金貳圓也

計金八圓五拾錢也

○記念會醴金

一金七圓也

一金拾圓也

一金五圓也

一金拾圓也

一金五圓也

計金五拾七圓也

累計金貳千六拾七圓也

○塚越先生謝恩金

一金貳圓也

累計金貳拾七圓也

○記念會醴金の件に就き謹告

拜啓 本校創立二十周年記念會醴金に就きては卒業生各位の多大なる御賛助に依り着々好成績を擧げ林友每號所載の如く有之候事御同悦の事に御座候就いては本十月を以て満期と相成候間醴金額のみ御申込に相成今以て現金御醴出無之向は整理の都合も有之候間可成取急ぎ御送金被遊度願上候

菊地先生謝恩金募集注意

別項記載の如く菊地先生には此度水戸高等學校へ御榮轉被遊候先生には大正九年二月御赴任此方御一身の事もかまはせぬ程に一貴本校博物教授の事に盡瘁せられ從來の上に更に面目を一新されし事周知の事實に有之候又寄宿舎々監として生徒訓育の任にあり此度本校より先生を失ふは誠に残念の次第と存候へども先生の御榮進の爲には致方なき事に御座候就いては此際謝恩金を募集し聊か先生御在任中の勞に酬ひ度と存候間卒業生諸君に於かれては主旨御了知の上振て御寄附賜度此段得貴意候也

但

一、送金方法は振替口座に依る時は東京

一七六〇番木曾山林學校宛、郵便

爲替に依る時は木曾山林學校内西澤

静人宛に願度候

一、締切期日は本年十二月末日限

一、領收證は別に差上ず林友に御都度發表致す可候

編輯部より

○先月號は編輯も後れましたが印刷所に病氣あり遂に印刷遅延一月程後れるに至り二三の諸兄より問合せの向もあり實にお詫び致すよりほかありません

○大正十一年も漸く十一月に入らんとし雜誌編輯者は大きな負荷の年の瀬にあつて介在するを感ずるのであります。例年の如く會員名簿を作るのであります。卒業生諸君の中、轉任轉居改姓改名其他種々の件に就き未だ本會雜誌部に御通知なき力は至急御報知を願ひます。又住所姓名職名等の正確を期する諸君の御報告も願ひます。又知己友人の諸君の夫れらにつきても同様御報告を願ひます

○本雜誌の編輯につきては左程困憊を感じませんが、一番困る事は毎月の發送に要する手數であります。印刷所より到着後一日か、つて之を折り疊み一日か、つて帶封し且宛名を書き捺印して發送するのであります。宛名を書く時は大程次の日に残る事多く發送する爲に郵便局に送るは四日目、日曜をはさむ時は五日目になる事あり頗る焦慮するのであります。何分九百部の仕末でありまして他の各委員の如く趣味と興味を感じて爲す事は決して出来ないものであります。殊に放課後の僅かの時間を之に割くのであります。之は確かに考へる所ある可きと思ふのであります。何かよいお考へのある方は御もらしを願ひます

○原稿は成る可く多きを願ひます。何卒諸君の玉稿を競つて之に投せられん事を願ひます。十九字詰にお書き下されば當方の便利此上なく、用紙請求御一報次第十九字詰十行の用紙何枚にても要るだけ送ります

○林友代につきては是非お拂込なき方は御送金を願ひます。以上

大正十一年十月廿三日印刷
大正十一年十月廿五日發行
長野縣四筑麻郡島町八番地
編輯部 長野縣松本市小柳町八番地
印刷部 長野縣松本市小柳町八番地
發行所 長野縣松本市小柳町八番地
【定價金參錢】